

# 第13回公式訪問報告



真剣な表情で授業にのぞむ5年生



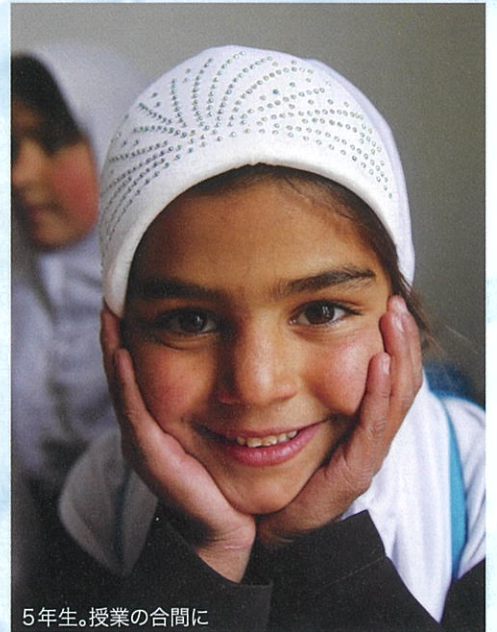
故サファダル校長が校庭に植えたアンズが満開。その下で微笑む9年生(中学3年生)



体育の授業。道を使って全力疾走



ショーイティーン(6年)が全校生徒の前に朝礼の訓示をする



5年生。授業の合間に

2016年もあと少しを残すだけとなりました。皆さまにとつて、2016年はどのような年だったでしょうか。支援の会は9月4日に大阪の高槻市で、9月10日には東京の武蔵野市で、現地報告会を行ない、第2期へ向けての構想をお話しました。今年の報告会には、カブールから安井浩美さんが加わり、報じられることの少ないアフガニスタンの現実や文化的な側面をビビッドに語ってくれました。また、第2期の会の運営のお手伝いができる方を募ったところ、3名の方がすぐに応じてくださったのもうれしい出来事でした。

その会の報告でもお話ししましたが、今年、現地で強く感じたことは、学校を卒業した子どもたちがアフガニスタンの未来への懸け橋になろうと羽ばたこうとしているということでした。彼らの口からは「国を良くしたい」という熱い思いがあふれます。同時に、「ノート、ペン、ザック……。こうしたご支援があつて私たちは学業を続けることができました。日本の皆さんへぜひ、この気持ちを伝えてください」と感謝の気持ちを託されました。

東日本大震災の復興は道半ばで、さらに熊本、そしてつい先だつては鳥取でも地震が続きました。経済的にも厳しい方も大勢おられると思います。そのような状況のなかで第二期への継続をお願いをするのは心苦しいのですが、支援は、子どもたちの心を照らすだけでなく、私たちの心も明るく照らしてくれるのではないのでしょうか。お互いの心をつなげる。それが、困難な時代の希望であり、未来への道しるべだと信じ、第二期の活動を皆さまと共に進めていきたいと心より願っています。

山の学校支援の会 代表・

長谷洋海

## アフガニスタン公式訪問

今年も長倉代表とともに森、高橋、そしてカブール在住のムルサルさんこと安井浩美さんが山の学校を訪問しました。4月7日から14日まで。長倉代表のレポートをお届けします。

**4月7日(木)** 成田出発。今回はドバイ経由で同行者は森、高橋。翌8日午後にかブール到着。9日は先生の給与の封入や交流会のおやつ、成績優秀者への保温水筒やザッグなどの賞品を購入。今回は第2期開始の広報用に二台で動画を撮るので、夜は安井さんと撮影手順や対象を打ち合わせ。

**4月10日(日)** マスード廟で献花を済ませ、山の学校に着いたときにはお昼を過ぎてしまい、生徒たちには会えなかった。車に満載のノートなど下ろし、夜はヤシン先生の家で夕食。私は近くの前校長サフダル宅に泊まる。ほぼ完成した家に家族はとても幸せそう。故サフダルも天国で喜んでるだろう。

**11日(月)** 学校に着くと、校舎の前で、子どもたちが朝礼中。さつそくビデオで先生、用務員さんにインタビューをはじめると、到着を知った父兄が7、8人やってきた。「支援への感謝の気持ち伝えたい」とわざわざ来てくれたのだ。全校生徒にお菓子を配る。学校が終わると、バザラックの州庁舎を訪れ、知事のアレフに面会。マスードと共に働いていたので、とても私を懐かしんでくれる。彼から地震被災者の



今日は女の子が朝礼をする日

ドが私たちの結婚式に来てくれたとき泊まった部屋なのよ」と感慨深そうに語った。

**12日(火)** 滞在三日目。車の到着が遅れたので、3人でバザラックから学校まで歩き始めた。かなりの上りで、結構疲れる。三分の一ほど行ったところで、車が来た。高校へ通う子は二時間かかるこの道を往復するのだ。

学校で子どもたち一人一人を自己紹介風に動画で撮影。安井さんが「笑って」と言うと、パツと笑顔を浮かべる子、ぎこちなく微笑む子、緊張でこわばったままの子、どの子の仕草もかわいい。中庭に5年と6年に集まってもらい、私の特別授業(支援を始めたきっかけやマスードの人物と教育への思い、そして日本とアフガニスタンについての話)を2年ぶりに行なう。そのあと、生徒が何人か立ち上がって、「これからも

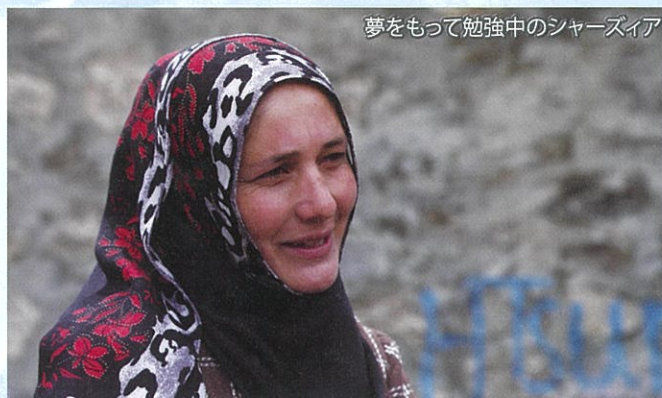
援助を続けてください」とお願いされる。

午後、図書館で、山の学校の卒業生で現在パシール大学で教育学を専攻している、山の学校の臨時教員をしているシャーズイアにインタビュー。教員の収入は、大学通学費(交通費)や文具など購入費の足しにする

のだという。以前、「法律家になって女性の人権を護りたい」と話していたが、まだその夢は捨てていないという。彼女はここあとバザラックまで2時間歩き、バス(有料)で大学に。また歩いて帰宅。日没近く、彼女が牛の面倒を見ている姿に胸が熱くなった。

山の学校で成績がトップだったワツハープが高校では成績が7番だという。「歩いて通うのに時間がかかり、疲れてしまう」というのだ。ホラム先生の長男ナウイドや私のカメラバッグ持ちだったラハマトラーはオストナにあるマスード工業高校へ通学しているが、なんと片道が4時間かかる。ハンディがありながら、卒業生は頑張っている。

**13日(水)** 学校の全景を撮っていると通学の子どもたちがやってくる。次はオートバイが見えた。運転しているのはカタイプ、3人乗りだ。オートバイは



夢をもって勉強中のシャーズイア

父親のアリが馬を  
売って買ったものだ。

学校に着くなり、父  
兄5人が会いにくる。  
「娘たちを下の高校に  
やりたいから、その乗  
り合いタクシー代を  
半額でも支援してく  
れないか」という相談  
だった。いままでは  
「どこに支援がある？  
俺は靴一足もらって  
いない」と言っていた

ナイマとファイマの父親も来ている。12年ほど前、長  
女のナシムゴルを学校に行かせてやってくれと頼ん  
だときには「娘は遠い学校にはやらない。足が悪い母  
親の手伝いが必要だ」と言い、ナシムゴルが結婚する  
と次女のナイマを中学2年で中退させた。「泣いて頼  
んだがだめだった」と話すナイマの悔しそうな顔が



女性教師の皆さん

忘れられない。そ  
の一家のファイマ  
が来年はもう高  
校生になる。

学校が終わって  
からサフダルが植  
えた満開のアンズ  
の下で、女性教師5  
人のインタビュー。  
私が伝統について  
質問したとき、  
シユグファ先生が  
「文化も伝統も、

平和があつてこそ」と話した。たしかに平和な暮らし  
がなければなにも始まらない……。

夕方、今春、遠方のヘラート大学のジャーナリスト  
学科に合格したけれど、財政的な事情で通えていな  
いシヨーケルと話をする。弟シャブルもカピサ大学  
経済学部合格。しかし、カブルのガソリンスタン  
ドで働く父親の収入は月120ドルしかなく、弟  
方を大学にやることにしたらしい。彼は土木現場な  
どのアルバイトで通学の経費をためようとしたが、  
いまは仕事もないという。

シヨーケルの  
下の弟ゼケル  
ラーは高校3年  
生。来年どうす  
るのかと聞くと、  
「軍隊に行く。そ  
して、家族に仕  
送りをする」と  
答える。「家は余  
裕がないので、  
自分は大学をあ  
きらめた。本当  
はビデオジャー  
ナリストになり  
たかったけれど、  
軍隊に行くことに迷いはない」とさわやかに言い切  
る。しかし、翌日、同じく高校生の妹ナルゲスとやっ  
てきた母親は「私はゼケルラーを軍隊にはやりたく  
ない。大学で勉強をしてほしい。お金？ なんとかな  
る。神様が助けてくれる」と涙を浮かべる。



大学に進学したワーシックが里帰りしているので  
会った。成績優秀のためトルコへの留学が決まってい  
たが、「トルコの政情がよくないのでサウジに変更さ  
れ、いまは待機中」だというワーシック。「将来は国の  
ために役立つことをしなければ。留学するのも、いい  
ところを取り入れるため。将来は、みんなが仕事を持  
てるような国にしたい。自分はアフガニスタンが故  
郷。戦争になったとしても、脱出などしない」と話す。  
ワーシックは、支援をはじめた頃の1年生。彼らが新  
しい国をつくっていく。

最終日、ア  
ミンの家で昼  
食をご馳走に  
なる。母親のナ  
ジラもマジャ  
ミンもナスミ  
ヤも、サミー  
ムもセジャー  
トもいる。近  
所のロイヤも  
シラーも、ナイ  
マとファイマも  
一緒だ。家族  
がみんな揃っ  
た食事の場に  
招かれるのは  
初めてだ。支  
援を続けて13年目、やっと家族に準じた扱いを受け  
られるようになったのかもしれない。



学校の子どもたちと別れ、14日の午後カブルに  
戻った。別れたばかりなのに、すぐに子どもたちの笑  
顔が懐かしくなった。



14日(木)

パンシール州で成績が2番で、カピサ



## ムルサルさんのカブール通信

## 支援継続の必要性

10月初め、ベルギーの首都ブリュッセルでアフガニスタン支援国会合が行なわれ、70か国と多くのNGOなどの団体が参加し、2020年までのアフガニスタン支援について話し合いがもたれました。結果、全体でアフガン政府の予想を上回る140億ドル(日本はその1割強の16億ドル)の支援が表明され、政府も一安心。他方、会合中には、北部のクンドゥズ州の州都がタリバンに陥落、多くの一般市民が避難せざるを得ない状況にもなりました。現在でもアフガニスタン34州中、11州では、依然タリバンやイスラム国との戦闘が続いています。アフガニスタンに駐留するNATO(北大西洋条約機構)軍によると、アフガニスタン国内には、およそ20のテロリストのグループが活動しているとみられ、特に東部ナンガルハル州を拠点に活動するダエシュ(イスラム国)は、1200人ほどの戦闘員を擁しているとされています。およそ3万人の戦闘員がいるとされるタリバンとの戦闘もここ数か月激化し、北部



ブリュッセル会合での集合写真。中央がガニ大統領とアブドラ行政長官。

や南部では、学校が閉鎖される事態も起こっています。さらには、1週間でおよそ200人の兵士が殉教して

戦いに出るために訓練を受ける国軍兵士。最近の戦闘で多くの兵士が犠牲となった。



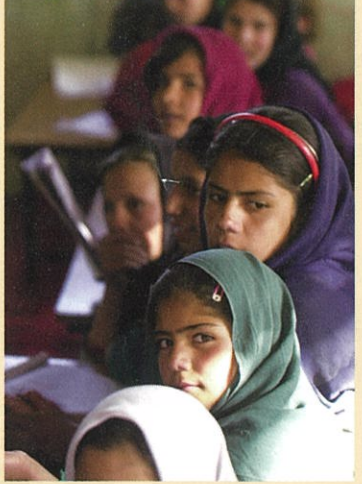
安井浩美

る背景をみれば、いかに、戦闘状況が激しいかわかりただけのものではないでしょうか。

アフガニスタン国内で、目立った戦闘のない比較的安定した州は、パンジシルやバーミヤン、さらには、首都カブール、マザリシャリフ、ヘラートくらいしかすぐに思いつかないような状況です。

せつかく山の学校も13年目を迎え、生徒たちも大学に通うようになり、成果が見え始めた矢先の治安の乱れは、この国の不安を見え隠れさせるばかりでなく、子どもたちの将来への影響も否めません。現に、ここ1か月(10月)の戦闘で11州・300の学校が戦闘の被害にあい、子どもたちは学校に行けない状況が続いています。

授業を真剣な表情で聞く避難民の子どもたち



何度もお伝えしてまいりましたが、タリバンなどイスラムの名のもとに罪のない人々を殺害するこういった状況を招くひとつの原因は、教育を受けられなかったことで正しい判断ができないということだと私は思います。内戦中も同じ思いでしたが、「教育を受けることができる子どもたちには、アフガニスタンの将来のために、また、できない子どもたちの分までしっかり勉強をしてほしい」。そのためには、教育の機会を与えたい。第2期に向けて、みなさまのご理解ご協力を心からお願いいたします。アフガニスタンを引き続き見守っていただければと思います。

アフガニスタン・カブール 安井浩美

## 事務局から

●9月4日(日)大阪・高槻市、10日(土)東京・武蔵野市にて第13回現地報告会を開催いたしました。長倉代表のスライド・トークとともに、今回初めてゲストに迎えた安井浩美さんが「アフガニスタンの今とこれから」というテーマで現在に至るまでのアフガニスタンの歴史を踏まえアフガニスタンの現状と今後のことについて映像を示しながら講演されました。続いて、長倉代表から2017年4月より第2期をスタートさせることについての説明と支援のお願いをし、最後に長倉代表と安井浩美さんが参加者のいるいろいろな質問にお答えしました。参加者は大阪67名、東京93名。新聞等を見て参加されたという一般の方も多く、率直で貴重なご意見やご感想をいただきました。長倉代表の新刊書の販売や「シルクロード・パームヤン・クラフト」の展示も好評でした。

●第2期支援の申込み用振込用紙を同封いたしました。ご確認の上引き続きご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

●これまでの不要切手や書き損じはがきのご提供、大変助かりました。ありがとうございました。第2期に向けてもご提供をどうぞよろしくお願いいたします。

●住所変更の場合はお手数ですが電話、ファックス、はがき、メール等でご連絡をお願いいたします。

●ツイッターとフェイスブックをはじめました。

ツイッター アフガニスタン山の学校支援の会  
(@afg.yamanogakko)

フェイスブック

<https://www.facebook.com/アフガニスタン山の学校支援の会>

ホームページとともにこちらでも情報を告知していきます。アカウントをお持ちの方はぜひフォローしてみてください。

〒187-0032 東京都小平市小川町1-1071-15 比留川 気付  
FAX & 電話 : 042-345-7805 E-mail: info.yamanogakko@yahoo.co.jp  
<http://www.h-nagakura.net/yamanogakko>  
郵便振替口座 : 00160-1-667404  
編集 ● 天野みか 岩動 紫 大守 裕 水間真紀  
題字 ● 近藤理恵 デザイン ● 浅井充志 印刷 ● 藤田印刷 (株)

アフガニスタン山の学校支援の会は、写真家・長倉洋海が取材活動を通して出会った、パンジシル渓谷ポローラ村の子どものための教育支援を目的として設立された非営利の団体です。2004年4月に設立、以後2014年3月までの約10年間にわたり活動を続けてきました。その後、2017年3月まで延長、4月より第2期支援活動をスタートさせます。